

□特 集

令和5年京都市人口動態統計(概数)の概要

合計特殊出生率が0.07ポイント低下

— 全国は0.06ポイント低下 —

悪性新生物による死亡が最も多く、全死亡者に占める割合は25.0%

— 2位は心疾患で16.8%、3位は老衰で11.4% —

自然減少数は前年と同じく1万6千人を超える

— 自然増減率は0.2ポイント低下、19年連続で自然減少が続く —

府健康福祉総務課

はじめに

人口動態統計は、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の5種類の「人口動態事象」について、その実態を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的として実施されています。

出生、死亡、婚姻及び離婚については、「戸籍法」による届出書から、死産については、「死産の届出に関する規程」による届書等から、その届出を受けた市区町村長が調査票を作成します。

これらの調査票は、保健所長、都道府県を經由し、厚生労働省に提出されます。

厚生労働省では、これらの調査票の毎月分及び年間分を集計して、人口動態統計月報(概数)、人口動態統計年報として公表しています。

この概要は、令和5年1月1日から12月31日までの間における京都市分について取りまとめたもので、数値は概数です。(令和4年以前の数値は確定数です。)

1 出生

— 出生数は8年連続で減少、

出生率は0.5ポイント低下 —

令和5年の出生数は、1万3882人で前年より1186人減少しました。

出生率(人口千対)は5.6で、前年に比べ0.5ポイント低下しました。

近年の出生数の推移をみると、昭和48年の第2次ベビーブーム期のピーク(4万4885人)以降減少し、昭和62年(2万6603人)には昭和41年(ひのえうまの年)の2万7755人を、平成26年(1万9583人)には2万人を下回るなど、概ね減少傾向が続いています。

(表1、図1)

表1 人口動態総覧、対前年比較

(単位：人)

	実 数					率		率(全国)	
	令和5年	令和4年	増減	増減割合(%)	平均発生間隔	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年
出 生	13,882	15,068	△ 1186	△ 7.9	37分52秒	5.6	6.1	6.0	6.3
死 亡	30,735	31,491	△ 756	△ 2.4	17分6秒	12.5	12.7	13.0	12.9
(乳児死亡)	23	31	△ 8	△ 25.8	380時間52分	1.7	2.1	1.8	1.8
(新生児死亡)	9	14	△ 5	△ 35.7	973時間20分	0.6	0.9	0.8	0.8
自 然 増 減	△ 16,853	△ 16,423	△ 430	2.6	…	△ 6.8	△ 6.6	△ 7.0	△ 6.5
死 産	268	322	△ 54	△ 16.8	32時間41分	18.9	20.9	20.9	19.3
婚 姻	8,731	9,571	△ 840	△ 8.8	1時間0分	3.5	3.9	3.9	4.1
離 婚	3,563	3,514	49	1.4	2時間27分	1.45	1.41	1.52	1.47

注1 令和4年は確定数

2 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は日本人人口千対、乳児・新生児死亡率は出生千対、死産率は出産(出生+死産)千対

3 算出に用いた京都市の人口は、令和5年=2,465,000人(令和5年10月1日現在・都道府県・男女別人口(日本人人口))

4 自然増減：出生数から死亡数を減じたもの

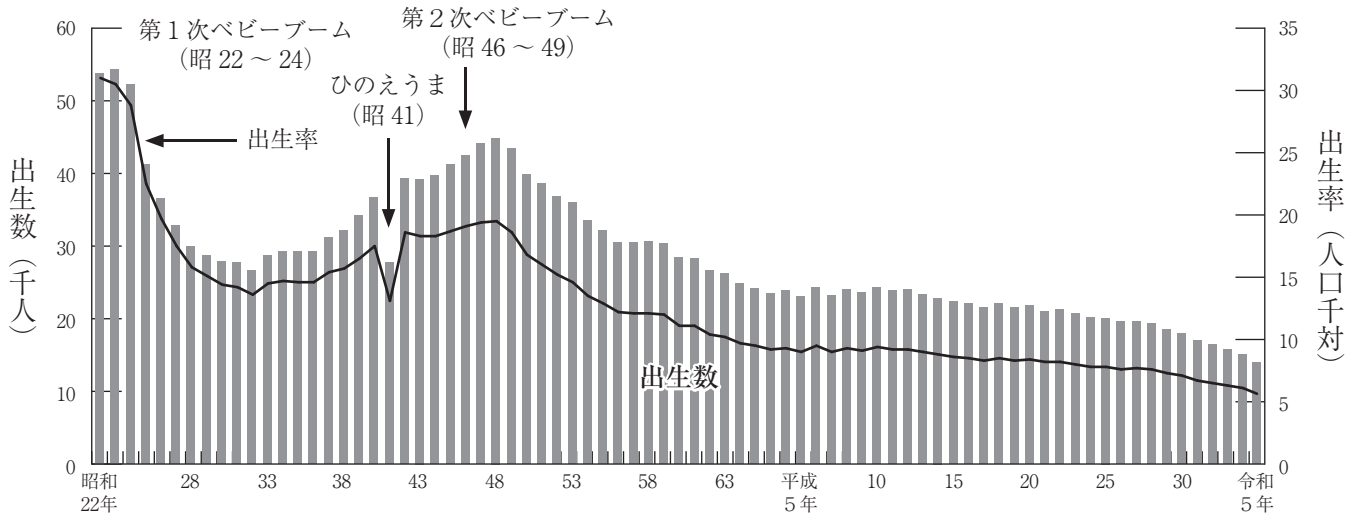
5 乳児死亡：生後1年未満の死亡数

6 新生児死亡：乳児死亡のうち、生後4週未満の死亡数

7 死産：妊娠満12週以後の死児の出産

8 平均発生間隔：1件当たりの事象発生が、どれだけの時間間隔をもって発生したのかを表したもの

図1 出生数・出生率の年次推移



合計特殊出生率は 1.11

—前年より 0.07 ポイント低下
 全国は 0.06 ポイント低下—

令和 5 年の合計特殊出生率は 1.11 で、前年の 1.18 より 0.07 ポイント低下しました。(表 2)

母の年齢階級別にみると、最も出生率が高かったのは、30～34 歳の層で、出生率は 86.4 (出生数 5009 人) となりました。

30～34 歳の出生率は、昭和 53 年以降上昇傾向にあり、平成 12 年には、25～29 歳の層を上回り、その後は出生数・率ともに第 1 位となっていますが、平成 27 年 (出生率 102.3) 以降は減少傾向にあります。

第 2 位は 35～39 歳の層で、出生率 53.8 (出生数 3496 人) となりました。35～39 歳の層と 25～29 歳の層との出生率の差は昭和 53 年には 165.7 ポイントありましたが、その後縮小が続き、令和 5 年には初めて順位が入れ替わりました。

第 3 位は、25～29 歳の層で、出生率は 53.7 (出生数 3435 人) となりました。25～29 歳は昭和 47 年 (出生率 213.8) をピークに低下傾向が続いています。

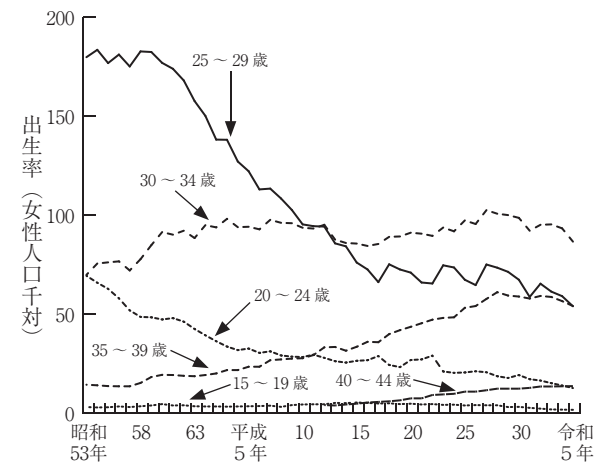
第 4 位は 20～24 歳の層で出生率 12.3 (出生数 852 人) となりました。(図 2)

表 2 合計特殊出生率の推移

年次	京都府	全国
昭和 40 年 ※	2.02	2.14
45 ※	2.02	2.13
50 ※	1.81	1.91
55 ※	1.67	1.75
60 ※	1.68	1.76
平成 2 年 ※	1.48	1.54
7 ※	1.33	1.42
12 ※	1.28	1.36
17 ※	1.18	1.26
18	1.19	1.32
19	1.18	1.34
20	1.22	1.37
21	1.20	1.37
22 ※	1.28	1.39
23	1.25	1.39
24	1.23	1.41
25	1.26	1.43
26	1.24	1.42
27 ※	1.35	1.45
28	1.34	1.44
29	1.31	1.43
30	1.29	1.42
令和元年	1.25	1.36
2 ※	1.26	1.33
3	1.22	1.30
4	1.18	1.26
5	1.11	1.20

※は国勢調査年

図 2 母の年齢階級別出生率の年次推移 (人口千対)



合計特殊出生率とは、その年の 15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計した値で、その年の女性の年齢別出生傾向が将来も変わらないと仮定した場合、1 人の女性が一生の間に生む平均の子どもの数に相当します。

2 死 亡

一死亡数、死亡率はともに減少一

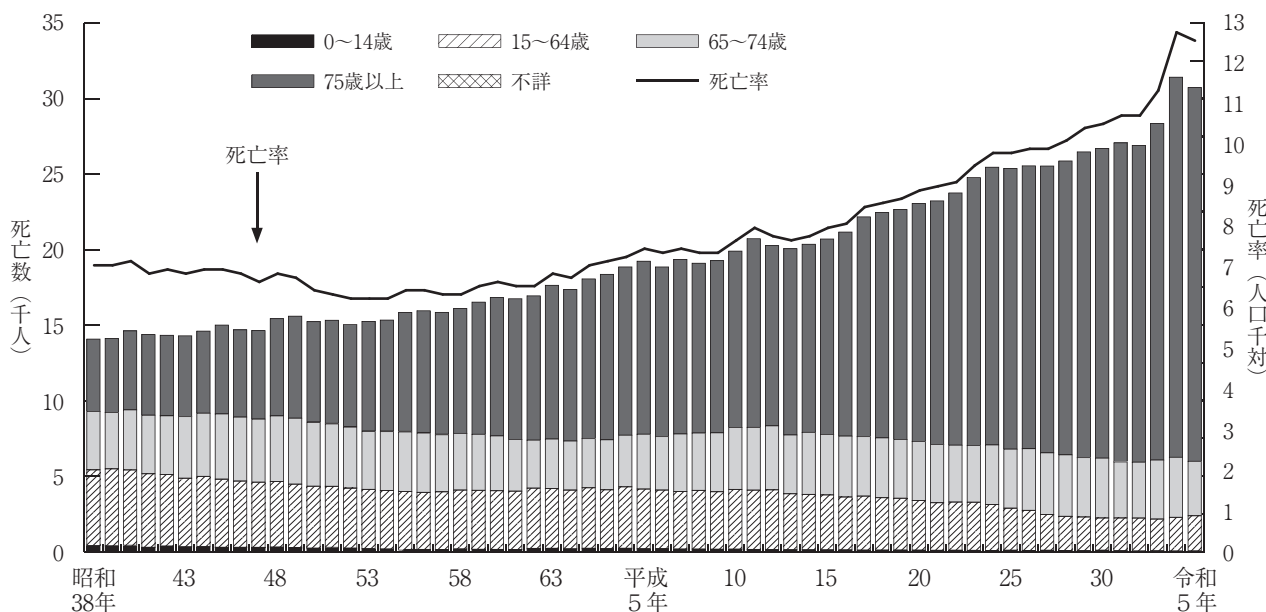
令和5年の死亡数は3万735人で、前年より756人減少しましたが、死亡率（人口千対）は12.5と8年連続で10を上回りました。（表1、図3）

死亡数の推移をみると、昭和44年以降1万5千人～1万9千人台で推移していましたが、平成11年に2万人台となって以後、増加傾向が続き、令和4年以降は3万人台となっています。

75歳以上の高齢者の死亡数については、令和4年より全死亡数の8割を超えています。

死亡率は昭和35年（死亡率7.7）以降低下傾向にあり、52～54年に3年連続6.3と戦後最低を記録した後、ゆるやかな上昇に転じ、平成13年（同7.7）以降は上昇傾向が顕著になりましたが、令和5年は12.5で、前年より0.2ポイント低下しました。（図3）

図3 死亡数・死亡率の年次推移



3 死 因

一悪性新生物による死亡数は全体の25.0%一

死因順位の第1位は悪性新生物（がん）で、令和5年の死亡数は7682人で、前年より309人減少、死亡率（人口10万対）は311.6で、前年より10.0ポイント低下しました。悪性新生物による死亡が全死亡数に占める割合は25.0%でした。

第2位は心疾患の5157人で、前年より31人減少、死亡率は209.2で、前年より0.4ポイント上昇しました。

第3位は老衰で、死亡数は前年より24人減少の3489人、死亡率は141.5となり、前年より0.1ポイント上昇しました。

第4位は脳血管疾患の1960人で、死亡率は79.5となり、前年より3.1ポイント低下しました。

第5位は誤嚥性肺炎で、死亡数は1303人、第6位は肺炎で、死亡数は1290人でした。自殺は、死亡数が401人となり、前年より40人増加しま

した。自殺死亡率は16.3でした。

また、悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患の3大生活習慣病による死亡が総死亡数に占める割合は、48.2%となりました。（表3、図4）

一悪性新生物(がん)部位別トップは「肺」一

悪性新生物（がん）の主な部位別死亡率（人口10万対）をみると、第1位は前年に引き続き「肺」で死亡率は67.5で、前年より0.1ポイント低下しました。

第2位は「大腸」で死亡率は44.2で、前年より2.1ポイント上昇しました。

第3位は「胃」で死亡率は30.7で前年より2.3ポイント低下しました。第4位は「肝」で、死亡率は18.8で、前年より2.2ポイント低下しました。

また、肺、大腸、胃の上位3疾患で悪性新生物死因総数の44.2%を占めています。（図5）

表3 死亡順位

死因順位	令和5年	死亡数(人)	死亡率	死亡総数に占める割合(%)	令和4年	死亡数(人)	死亡率	[参考] 全国(令和5年)	死亡数(人)	死亡率
第1位	悪性新生物	7,682	311.6	25.0	悪性新生物	7,991	321.6	悪性新生物	382,492	315.6
2	心疾患	5,157	209.2	16.8	心疾患	5,188	208.8	心疾患	231,056	190.7
3	老衰	3,489	141.5	11.4	老衰	3,513	141.4	老衰	189,912	156.7
4	脳血管疾患	1,960	79.5	6.4	脳血管疾患	2,053	82.6	脳血管疾患	104,518	86.2
5	誤嚥性肺炎	1,303	52.9	4.2	誤嚥性肺炎	1,241	49.9	肺炎	75,749	62.5
6	肺炎	1,290	52.3	4.2	肺炎	1,168	47.0	誤嚥性肺炎	60,186	49.7
7	不慮の事故	655	26.6	2.1	腎不全	639	25.7	不慮の事故	44,380	36.6
8	腎不全	575	23.3	1.9	不慮の事故	603	24.3	腎不全	30,203	24.9
9	アルツハイマー病	541	21.9	1.8	アルツハイマー病	533	21.4	アルツハイマー病	25,451	21.0
10	血管性及び詳細不明の認知症	504	20.4	1.6	血管性及び詳細不明の認知症	518	20.8	血管性及び詳細不明の認知症	23,874	19.7

注 令和4年は確定数
死亡率は人口10万対である。

図4 主要死因別死亡率の年次推移(人口10万対)

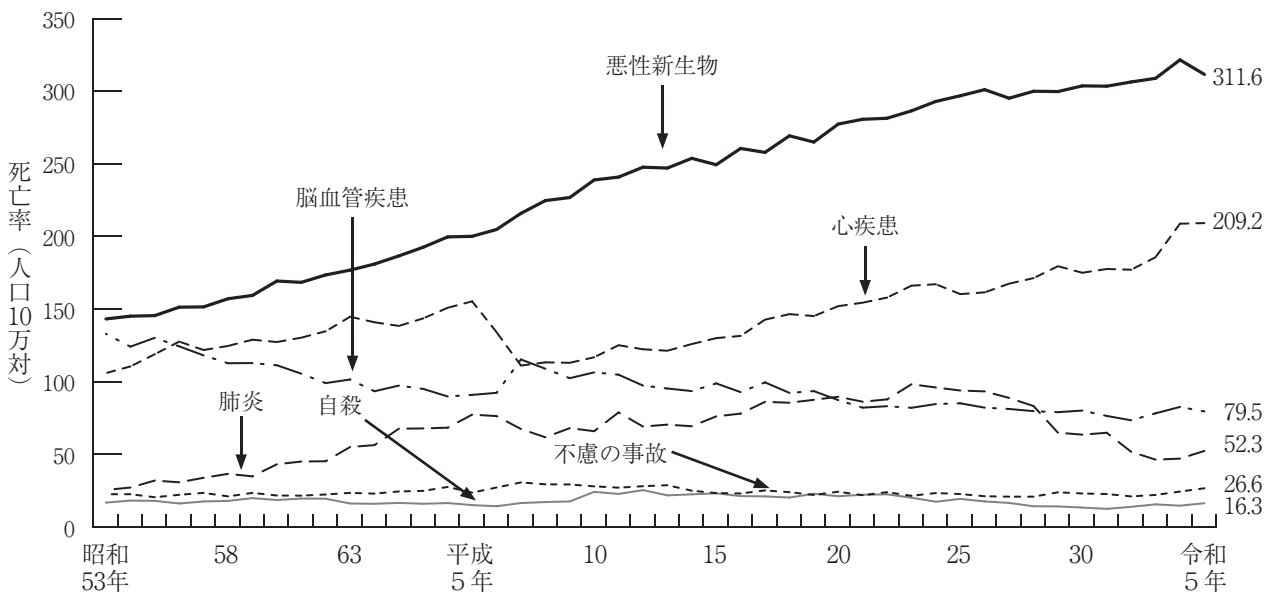
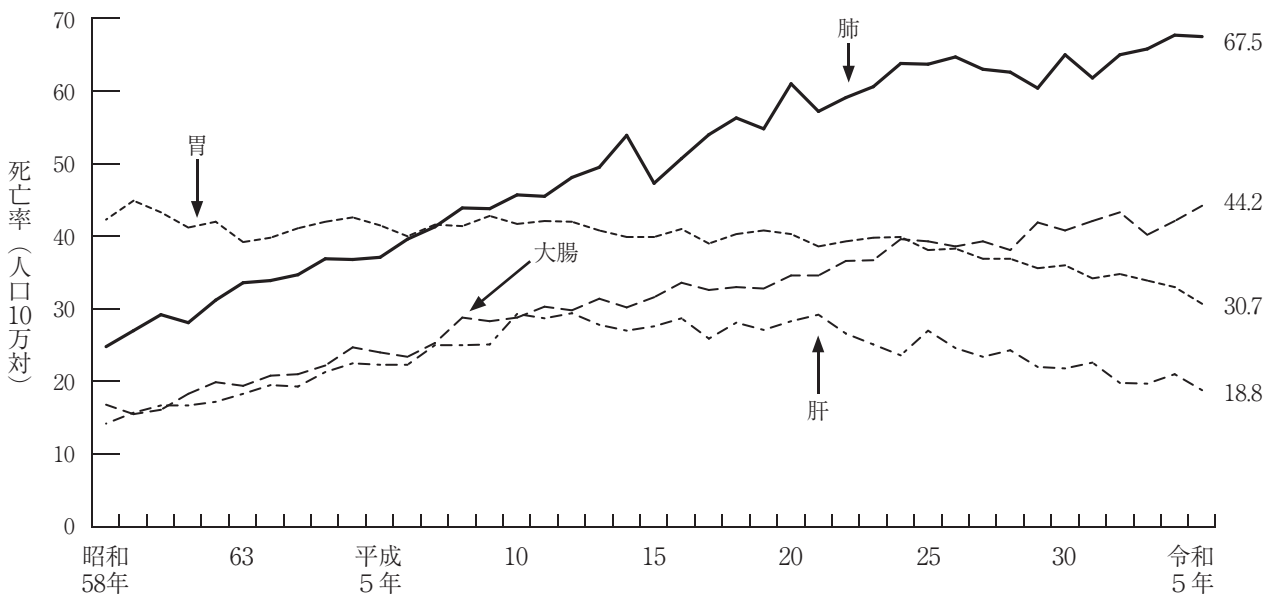


図5 悪性新生物(がん)の主な部位別死亡率の年次推移(人口10万対)



男女別死亡率をみると、男性の死亡率（人口10万対）は、「肺」が平成3年以降第1位で、95.1となり、前年より3.7ポイント低下しました。

第2位は「大腸」で46.3と、前年より0.9ポイント上昇しました。

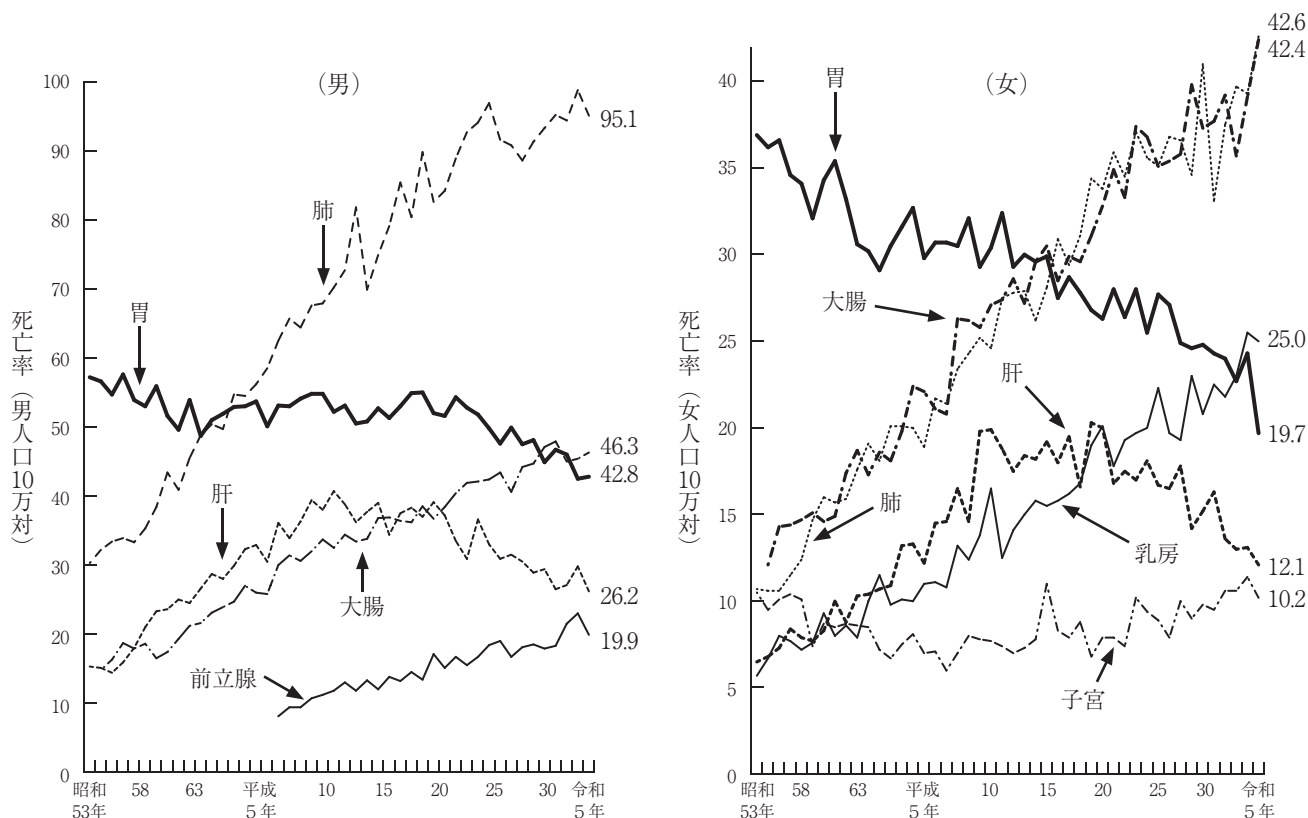
第3位は「胃」で42.8、第4位は「肝」で26.2となりました。

女性の死亡率（人口10万対）は、「肺」が42.6で第1位となり、前年より3.3ポイント上昇しました。

第2位は「大腸」で42.4と3.3ポイント上昇し、第3位は「乳房」で25.0と0.5ポイント低下しました。「胃」は19.7、「子宮」は10.2となりました。

（図6）

図6 悪性新生物（がん）の性別・主な部位別死亡率の年次推移（人口10万対）



- 注1 文中、図5及び図6において肺とは、気管、気管支及び肺の悪性新生物である。
- 注2 文中、図5及び図6において大腸とは、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物である。
- 注3 文中、図5及び図6において肝とは、肝及び肝内胆管の悪性新生物である。
- 注4 図6において大腸の昭和53年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。
- 注5 図6において前立腺の平成6年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。

4 乳児死亡・新生児死亡

一乳児死亡率は0.4ポイント低下、

新生児死亡率は0.3ポイント低下

令和5年の乳児死亡数は23人で、前年より8人減少し、乳児死亡率（出生千対）は1.7で、前年より0.4ポイント低下しました。

新生児死亡数は9人で、前年より5人減少し、新生児死亡率（出生千対）は0.6で、前年より0.3ポイント低下しました。（表1）

5 自然増減

一自然減少数は1万6千人を超える

出生数から死亡数を減じた自然増減数は、平成17年に初めてマイナスに転じて以降、自然減少が続いており、令和5年には1万6853人となり、2年連続で1万6千人を超えました。自然増減率（人口千対）はマイナス6.8で、前年より0.2ポイント低下しました。（表1）

6 死産

一死産率は2.0ポイント低下一

令和5年の死産数は268胎で前年より54胎減少、死産率（出産千対）は18.9と、前年より2.0ポイント低下しました。（表1）

7 婚姻

一平均初婚年齢 夫は31.2歳、妻は29.9歳 男女とも晩婚化進む一

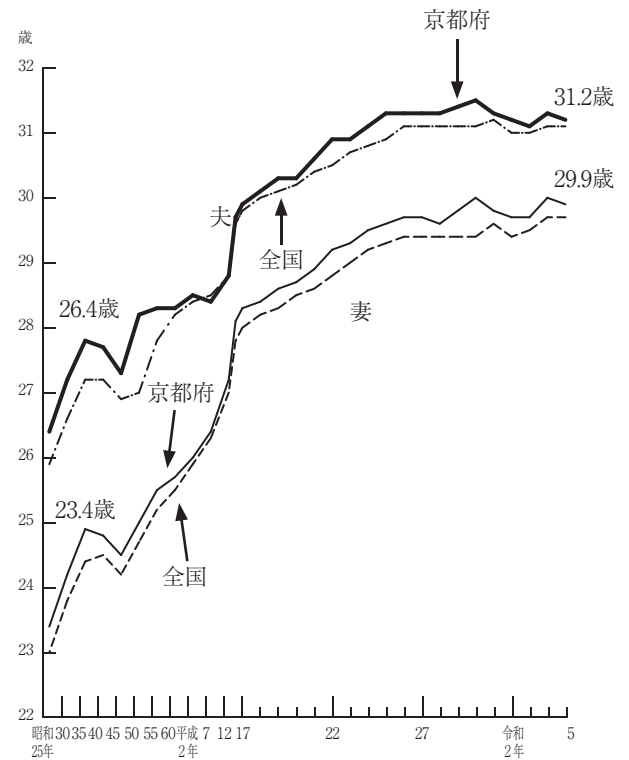
令和5年の婚姻件数は8731組で前年より840組減少し、婚姻率（人口千対）は前年より0.4ポイント低下し、3.5となりました。（表1）

また、平均初婚年齢は、夫が31.2歳で前年より0.1歳低下し、妻が29.9歳で前年より0.1歳低下しました。

平均初婚年齢の推移をみると、昭和25年以降は上昇傾向が続き、昭和25年（夫＝26.4歳、妻＝23.4歳）と比べると、夫は4.8歳、妻は6.5歳上昇しており、男女とも晩婚化が進んでいます。

（図7）

図7 平均初婚年齢の推移



注1 昭和40年以前は、結婚式をあげた時の年齢、45年以降は、結婚式をあげた時又は同居をはじめたときの年齢
2 記載の年齢は京都府の初婚年齢

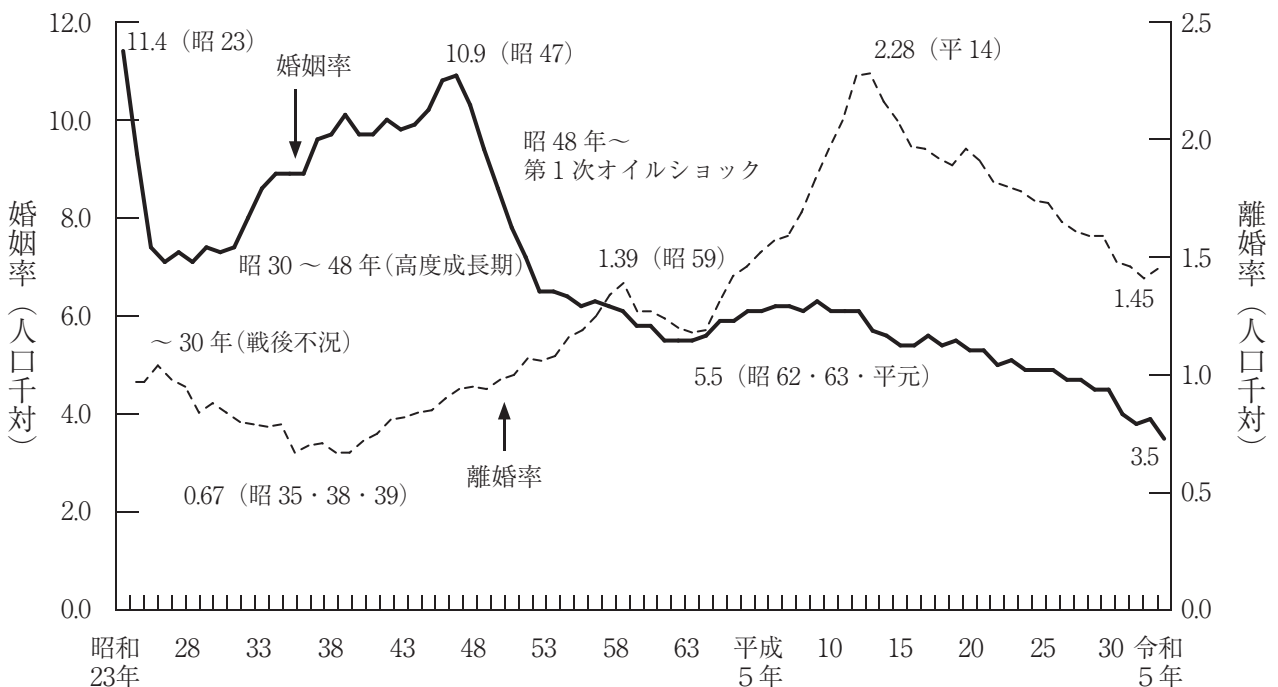
8 離婚

一離婚件数は減少傾向が続く一

令和5年の離婚件数は3563組で、前年より49組増加し、離婚率（人口千対）は前年より0.04ポイント上昇し、1.45となりました。（表1）

離婚率の推移をみると、昭和35年、38年、39年に戦後最低（離婚率0.67）となった後上昇し、59年以降低下していましたが、平成2年から再び上昇に転じ、平成14年には過去最高の2.28を記録し、その後は低下傾向が続いています。（図8）

図8 婚姻率・離婚率の年次推移（人口千対）



第1表 人口動態（概数）保健所、市町村別（令和5年）

区 分	出生数			死亡数			乳 児 死亡数	新生児 死亡数	死産数	婚 件	姻 数	離 件	婚 数	自 然 増加数
	総数	男	女	総数	男	女								
総 数	13,882	7,119	6,763	30,735	15,564	15,171	23	9	268	8,731	3,563	△16,853		
京 都 市	7,692	3,955	3,737	16,855	8,458	8,397	6	3	155	5,477	2,072	△9,163		
その他の市町村	6,190	3,164	3,026	13,880	7,106	6,774	17	6	113	3,254	1,491	△7,690		
乙訓保健所	1,180	603	577	1,593	772	821	3	1	20	570	176	△413		
向日市	397	209	188	588	285	303	2	1	7	192	57	△191		
長岡京市	608	313	295	824	403	421	-	-	9	310	92	△216		
大山崎町	175	81	94	181	84	97	1	-	4	68	27	△6		
山城北保健所	2,227	1,155	1,072	4,789	2,595	2,194	9	2	40	1,181	597	△2,562		
宇治市	943	492	451	2,071	1,112	959	4	1	12	501	231	△1,128		
城陽市	378	202	176	908	502	406	3	1	14	218	101	△530		
八幡市	301	146	155	768	419	349	-	-	5	192	130	△467		
京田辺市	468	235	233	617	341	276	2	-	6	181	91	△149		
久御山町	76	49	27	188	100	88	-	-	3	51	19	△112		
井手町	32	17	15	123	56	67	-	-	-	27	8	△91		
宇治田原町	29	14	15	114	65	49	-	-	-	11	17	△85		
山城南保健所	693	349	344	1,230	632	598	1	-	7	334	160	△537		
木津川市	506	247	259	747	405	342	1	-	6	234	110	△241		
笠置町	4	2	2	37	17	20	-	-	-	3	2	△33		
和束町	6	3	3	69	33	36	-	-	-	9	5	△63		
精華町	170	92	78	325	152	173	-	-	1	83	39	△155		
南山城村	7	5	2	52	25	27	-	-	-	5	4	△45		
南丹保健所	645	327	318	1,835	923	912	2	2	18	327	191	△1,190		
亀岡市	490	253	237	1,051	547	504	2	2	14	226	131	△561		
南丹市	131	62	69	508	249	259	-	-	2	73	43	△377		
京丹波町	24	12	12	276	127	149	-	-	2	28	17	△252		
中丹西保健所	483	240	243	1,018	494	524	1	-	11	281	106	△535		
福知山市	483	240	243	1,018	494	524	1	-	11	281	106	△535		
中丹東保健所	553	271	282	1,732	833	899	-	-	10	323	129	△1,179		
舞鶴市	413	209	204	1,147	563	584	-	-	8	255	93	△734		
綾部市	140	62	78	585	270	315	-	-	2	68	36	△445		
丹後保健所	409	219	190	1,683	857	826	1	1	7	238	132	△1,274		
宮津市	53	31	22	356	177	179	-	-	1	43	24	△303		
京丹後市	261	136	125	924	478	446	1	1	4	142	85	△663		
伊根町	9	3	6	46	21	25	-	-	1	4	2	△37		
与謝野町	86	49	37	357	181	176	-	-	1	49	21	△271		

